

# 大戦後台湾における同郷会組織の形成

四川人の移動と人脈形成を事例として<sup>1)</sup>

林 幸 司

## はじめに

1949年の中国大陆における政治的変動は、巨大な人的移動をとまなうものであった。中国共産党が中国各地に進駐して新たな政権をうちたてるさいには、北方から軍人や幹部が送り込まれ、それに押し出されるように、多くの人々が香港や台湾、東南アジアへと逃れていった。中国大陆を離れた人々は、それまで居住していた各地域での関係を喪失したことから、送先で同郷会などの新たなコミュニティを形成し、従前の人のつながりを中心とする地域的結合を保持していった。こうした人的移動と、それにとまなう社会経済的変動は、人と人とのコネクション（いわゆる「関係」）が重要視される中華社会において、きわめて大きな意味を持ったであろう。本稿は、台湾で形成された外省人同郷団体に着目し、中国大陆における政治的変動とともに生じた巨大な人的移動が、いかなる政治・経済・社会的変動をもたらしたのかについて、その一端を明らかにしようとする試みである。

---

1) 本稿は、交流協会 2010 年度日台研究支援事業助成、成城大学 2011 年度特別研究助成、2012 年度科学研究費（若手研究 B、研究課題番号：24730295）による研究成果の一部である。また、本稿の執筆にあたっては、楊義富氏や王芝剛氏をはじめとする高雄四川同郷会の方々、夏良玉氏や劉瑞品氏をはじめとする台北四川同郷会の方々、呉守成教授（海軍軍官学校）、陳慈玉教授（国立中央研究院近代史研究所）、張力教授（同）などから多大なるご支援を賜った。記して感謝したい。

中国において、同郷団体の形成が本格化したのは、16世紀以降のことであった。人口爆発と政治不安が生じた当時、浙江などの沿海部から西南山岳地帯などへの移住がすすみ、それに伴って移住先における安定的相互扶助をおこなうための社会組織が形成された。その中には、人と人との擬似的血縁関係を基礎とする秘密結社組織とともに、同郷同士の地縁的結合を基礎とする会館・公所、同業結合である行・幫などがあった。これらは、その時代とともに拡大と縮小を繰り返しながら、複雑にからみあい、移住先での新たな「信用」を形作っていった。

中国におけるこれら伝統的同郷・同業組織は、(1)同業団体であると同時に同郷団体であり、また成員全てが同業とは限らない、(2)都市行政を主体となって構成することがない、という点で、中世ヨーロッパのギルドとは異なる独自の社会的性格をもっている<sup>2)</sup>。本稿における同郷団体についての分析は、現代における独特の中国的社会秩序を探る試みでもある。

これまで中国 台湾間の人的移動については、山本真<sup>3)</sup>のように、福建省など沿海地区と台湾の関係に着目した研究がある。また、台湾における同郷会については、鐘豔攸ら<sup>4)</sup>のように、外省人としての大陸出身者が台湾においていかなる同郷組織を形成したのかを追求する研究がある。また、高雄四川同郷会については、李映堯の研究<sup>5)</sup>により、そのあらましが示されている。

本稿で主に用いる資料は、高雄四川同郷会が発行する機関誌である『高雄四川同郷会年刊』<sup>6)</sup>である。同資料には、同郷会の歴史記録や、会務報

---

2) 高橋泰蔵・増田四郎編集『体系経済学辞典 第6版』東洋経済新報社、1984年、161頁。根岸信『上海のギルド』日本評論社、1951年。

3) 『第2次世界大戦後、台湾海峡両岸における人の移動とその背景、閩台関係の視角から 1945年～1950年代初頭』『東アジア近代史』第10号、2007年3月。

4) 『政治性移民的互助組織』台北：稻郷出版社、1999年。

5) 『四川人在台湾 高雄四川同郷会史』成都：四川人民出版社、2001年。

6) 同資料については、その大部分を楊義富氏より提供された。

## 大戦後台湾における同郷会組織の形成

告、各種イベント案内など、同郷会の活動内容に関する記事が豊富に含まれている。またこれら一次文献に加えて、筆者がこれまで行ってきた関係者へのインタビューの成果も、随所で利用した。

これらの先行研究および資料状況をふまえ、本稿では、台湾における中国大陸を起源とする同郷団体の形成過程について、具体的に跡づけていくこととしたい。

### 大戦後中国における政治的変動と人的移動

1945年、アジア太平洋戦争が終結してからほどなく、中国では中国国民党と中国共産党による内戦（国共内戦）が再開された。戦局ははじめ国民党側に有利であったが、1947年9月の中国人民解放軍総反撃以降、共産党側が優勢となった。1948年に入ると、中国東北部において共産党による都市部の掌握が本格化し、同年末までには、権力の集中・都市接収経験の共有・政策立案の統一を可能とする制度が完成を見た。このように華北地区において共産党の支配地域が拡大する中、華中・華南を主体とする国民政府の領域では、政治的動揺とともに深刻な経済危機が生じ、物価は1945年の380倍以上に跳ね上がった<sup>7)</sup>。国民政府は、1948年8月には法幣に変わる通貨「金円」を導入し、また1949年7月には、金円を廃止して銀元券を導入するが、経済危機を乗り切ることができなかった

こうした流れは、中国における経済流通システムや交通網などに大きな混乱をひきおこすとともに、国民政府から共産党政府への政権交代を見越した動きを本格化させていった。長江下流域では、1948年半ばより、銀行や各種企業などが資本を香港へ逃避させる動きが急速に広まり、600億香港ドル以上の資金が上海から香港に流れたとされる<sup>8)</sup>。また、こうした

7) 例えば、「重慶基要商品躉售物価指数」吳岡編『旧中国通貨膨張史料』上海人民出版社、1958年、165～173頁。

8) 邢広益「論遊資逃避香港」『銀行週報』第32巻31期、1948年8月2日、9頁。

動きに連動して、中国の銀行が次々と香港における支店や出先機関を拡充していった<sup>9)</sup>。1948年末頃からは、国民政府系の官僚や有力者の中国大陸離脱がはじまった。例えば、重慶において70以上の企業で董事や総経理をつとめ、1948年には国民政府経済部長の地位にあった劉航琛は、1949年に香港を経て台湾へ移っている<sup>10)</sup>。また、国民政府で財政・金融政策にかかわった徐堪は、1949年に香港を経てアメリカへ渡っている<sup>11)</sup>。そして1949年12月、国共内戦に敗れた国民政府が台湾台北へ遷都すると、多くの軍人・官僚・およびその家族たちが、台湾へと移住することとなるのである。

### 高雄四川同郷会の組織とその経緯

#### (1) 高雄と四川人

1949年に前後して、国共内戦に敗れた国民政府が台湾へ逃れてくる際、その受け入れ口となった都市の一つが、台湾南部に位置する高雄である。明代以降「打狗 (Tankoya, Takau)」と称された土地<sup>12)</sup>が、「高雄」と改称されたのは、日本が台湾における植民地建設を開始してからのことであった。日本の台湾植民地建設の拠点であった台湾総督府は、1900年前後、台湾

9) 香港では1948年に前後して、銀行支店開設登記が数多く行われていることが、Public Record Office of Hong Kong 所蔵の銀行関係史料冊からうかがえる。例えば、Young Brothers Banking Corporation(聚興誠銀行)【HKRS113-2-19】、The Bank of Chungking (H. K.) Ltd (重慶銀行)【HKRS114-4-85】、The Shanghai Commercial & Savings Bank Ltd (上海商業儲蓄銀行)【HKRS 113-0-08】、Salt Industry Bank of Szechuen Ltd (川塩銀行)【HKRS113-0-06】など。なお、これらの銀行の中には、大陸における社会主義化によって本店が実態を失った後も、香港で引き続き営業を続けていたものも存在し、大変興味深い。この問題については、今後別の機会に論じることとしたい。

10) 沈雲龍他訪問、張朋園他記録『劉航琛先生訪問記録』(中央研究院近代史研究所口述歴史叢書(22)、中央研究院近代史研究所、1990年、145～172頁。

11) 李盛平主編『中国近現代人名大辞典』北京：中国国際広播出版社、1989年、565頁。

12) もとは先住民平埔族の支族である馬卡道族(Makatao)が居住していた地域を、音訳したのが「打狗」であるという。楊玉姿・張守真『高雄港開発史』高雄市文献委員会、2008年、16頁。

における経済建設、ひいては東南アジアなど南方への進出のため、大規模な港の建設を意図していた。北部では、台北からほど近い基隆がその対象となり、南部では、高雄に白羽の矢が立ったのである。1904年、高雄港は台湾縦貫鉄道の終着地点に指定され、港の浚渫や拡張など、本格的な建設が開始された<sup>13)</sup>。以来高雄港は、南部台湾産業の玄関口として、主要な地位を占めるようになる。一方、現在高雄市街の北部に位置する左営には、日本海軍の補給基地が設けられ、東部に位置する鳳山には、日本陸軍の基地が置かれていた<sup>14)</sup>。このように、日本支配時代を通して、市街地を軍事施設が囲む現在の状況が形成されている。

日本の敗戦後、高雄は中華民国台湾省の轄区として接收され、国民政府の支配を受けることとなった。そして1949年に前後して、国共内戦に敗れた国民政府が台湾へ逃れてくると、高雄は政府に伴って台湾入りする軍人や政府職員などの受け入れ口となった。彼らのうち、海軍系統の多くは旧日本海軍の施設を接收した左営付近に<sup>15)</sup>、陸軍系統の多くは同じく旧日本陸軍の施設を接收した鳳山付近に居住し<sup>16)</sup>、そしてその他商業に従事する人々は、高雄港に近い商業街である塩埕に集住した。

本稿の主役である四川籍の人々は、その多くが陸軍に属する軍人およびその家族であった。後述するように、現在「高雄四川同郷会」名誉理事を務める楊義富氏は、抗日戦争に従軍するため四川省渠県で入隊し、ミャンマーや広東方面を転戦した。国共内戦時には中国東北部（旧満州）に派遣されたが、敗戦とともに上海へ移動し、そこから船で高雄へ上陸した。同氏は台湾へ渡って後、陸軍訓練司令部幹部訓練班臨時中隊に編入され、新兵訓練に従事したという<sup>17)</sup>。日中戦争期を通じて、国民政府は、重慶を中

13) 前掲『高雄港開発史』70頁。

14) 戦前期の左営には、後に日本国首相となる中曽根康弘氏も住んでいたという。筆者の呉守成氏（海軍軍官学校教授）に対する聞き取り（2010年3月7日）。

15) 国防部編印『眷恋 海軍眷村』（2008年）。

16) 国防部編印『眷恋 陸軍眷村』（2008年）。

【表1】太平洋戦後高雄市人口における出身地の内訳

年度	総 計	高 雄 籍	本省他縣市	外 省 籍
1946	132,166	104,114	26,923	1,129
1951	285,742	183,470	39,538	62,734
1956	371,225	211,706	75,782	83,737
1961	491,602	246,941	125,088	119,573
1966	632,662	286,769	189,170	156,723
1971	871,824	359,172	310,670	201,982
1976	1,019,900	370,366	446,602	202,932
1981	1,227,454	442,768	570,985	213,701
1986	1,320,552	442,098	663,764	214,690

出所：陳震東『高雄市人口変遷之研究』（高雄市文献委員会，1988年）150頁より筆者作成。

心とする四川地方を、抗日戦争を戦い抜くための「大後方」と位置づけ、徴兵制度や食糧徴発をはじめとする多くの戦時政策をおこなっていた<sup>18)</sup>。その結果、国民党の軍隊である国軍の軍人の中には、多くの四川出身者が加わっていた。彼らが軍隊に加入した動機は様々であったが、多くは貧しい環境から逃れることを目的としたものであったという<sup>19)</sup>。

彼らが台湾へやってきた当時、高雄は国民政府によって接收されて間もない時期であった。加えて高雄市では、中国大陆に籍貫（本籍）をもつ外省人の人口が急速に増加し<sup>20)</sup>、また228事件を受けて外省人と本省人の対立が先鋭化している時期でもあった。軍隊や政府機関とともに高雄へ定

17) 筆者の楊義富氏に対する聞き取り（2008年8月，2010年3月6日）。

18) 笹川裕史・奥村哲『銃後の中国社会』岩波書店，2006年。

19) 筆者の王一心氏に対する聞き取り（2008年8月）。王一心氏は，1927年四川生まれの元軍人・実業家である。

20) アジア太平洋戦争終戦直後の1946年には1,129人であった外省人は，1951年には62,734人にまで増加している。これは当時の総人口285,742人の約22%にあたる。陳震東『高雄市人口変遷之研究』（高雄市文献委員会，1988年）150頁。

住した四川出身者たちは、政治的にも、また言語的・文化的にも、ここで孤立した状態を余儀なくされていた<sup>21)</sup>。

さらに大きな問題となっていたのは、政府の軍人退役政策の展開である。1951年の台湾では、男子労働人口の2割が軍人で占められており、国民党政府だけでなくアメリカからも軍人削減の圧力が強まっていた。それゆえ、1952年、「陸海空軍官在台期間假退役假除役実施辦法」が施行され、一般の軍人の多くは実質的に退役の上、「榮民」として遇されることになった<sup>22)</sup>。この結果、もともと台湾社会と切り離された存在であった外省籍軍人の中には、生活の糧を失い、困窮する者が出現した。そしてこれらの施策は、軍人が多かった在台湾四川人の生活にも大きな影響を与えることとなったのである。

## (2) 同郷組織の成立

以上のような状況の中で、高雄では四川人による同郷組織設立の機運が起こっていく。1953年、高雄へ移住した四川籍の陳聘為・朱森良・羅邦豪らの3名は、「総裁 [ 蔣介石, 筆者註, 以下同じ ] は反共復国と言っているが、移住からすでに3年がたち、おそらく故郷へ帰ることは難しい」ため、「異境に流れ着き、生活をいとむには、やはり同郷同士が助け合わなければならない」との認識から、「旅台高雄四川同郷会」の設立を提議した<sup>23)</sup>。彼ら3名は、数十名の同郷人を集め、同郷会の看板を、「四川餃子館」の門前にかかげた。しかし、当時は失業者が多く、看板を見かけた同郷人が救助を求めておしかけたため、看板をかかげるのを中止した。1956年になって、生活環境が変化するとともに、本格的な同郷会の設立

21) 台湾人の話す言葉は、日本語と台湾語（閩南語）だったため、四川人にとっては電話ひとつもうまく通じない状態であったという。筆者の王一心氏に対する聞き取り（2008年8月）。

22) 龔宜君『「外来政權」与本土社会 改造後国民党政權社会基礎的形成（1950~1969）』（稻郷出版社、1998年）88~89頁。

23) 「高雄四川同郷会的歴史」『高雄四川同郷会年刊（1981年）』3頁。

が計画され、劉冀東（高雄市常務税務司）を理事長、鄧根実（中央日報社記者）を常務理事とする同郷会組織が発足した。しかし、依然として大陸から移住した失業者が多かったこと、基金や会館が存在しなかったことから、会務に必要な資金が集まらず、実質的な活動は行われなかった。たとえば、四川の伝統演劇である「川劇」を催し、その入場料収入を会務資金にしようとする試みがなされたが、劇団の招聘費や会場費を支払うと、残りはいくらもなくなってしまったという。

1960年代後期になると、大陸からの軍人の多くが退役の年代を迎えた。そして1970年代、台湾経済は飛躍的發展をとげ、経済的な余裕が出てくることとなる。前述した楊義富は、軍籍を退いた後、道路工事などの都市インフラ産業に参入し、事業に成功をおさめた<sup>24)</sup>。そして1979年、彼を支柱として本格的な同郷会が設立されていく。

発起人には、前出の鄧根実に加え、楊義富、陳珍松（銀行經理）、張君麟（川味食店経営者）、曹遠謙（高雄港務局副技師）などがあつた。彼らは、「高雄市人民団体組織法」にもとづき、高雄市政府へ正式な団体（社団法人）として登録を申請し、その認可を得て発会を宣言した<sup>25)</sup>。また、会館ビルも、楊義富の寄贈をもとに建設された<sup>26)</sup>。高雄四川同郷会は、ここに実質的な成立を見たのである。

---

24) 筆者の楊義富氏への聞き取り（2008年8月、2010年3月）。1930年代の重慶において同業者組織の活動が活発化したのは、当時の軍閥政権のもとで展開された都市インフラ整備（電気・水道・道路など）を通して、新たな利権が形成されたからであった（林幸司『近代中国と銀行の誕生 金融恐慌・日中戦争・そして社会主義へ』御茶の水書房、2009年）。大戦後の台湾においても、同様のことが生じていたと考えられる。またこのことは、政府との関わりが強い公的事業を外省人が独占していたこと、また外省人であることが政府から見て「信用」するに足る条件であったことを表している。高雄四川同郷会が実質的に設立されていく動機を見る上で、大変興味深い。

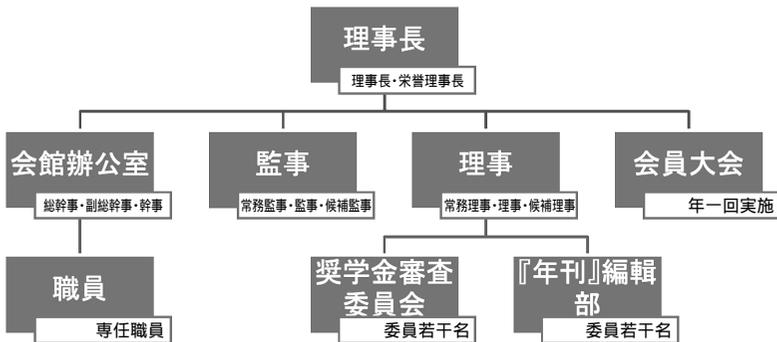
25) 「高雄四川同郷会的歴史」『高雄四川同郷会年刊（1981年）』4頁。なお、社団法人の登記申請は、1980年代になると比較的容易になったという証言があり（筆者の劉瑞品氏〔台北四川同郷会理事長〕に対する聞き取り、2010年3月15日）、これも四川同郷会の本格的結成の時期に影響している可能性がある。

(3) 同郷会の組織

まず、同郷会の組織については、【図1】の通りである。会務は、組織としての決定・執行をおこなう理事と、それらや財務状況を監査する監事、実務を担当する会館辦公室に分担されている。実際の業務執行などについては、事実上理事長直属となっているところが大きな特徴である。また、これらの職位のほか、機関誌を出版する「年刊編集部」、奨学金の支給とその管理をおこなう「奨学金・助学金評核委員会」が、独立した機関として設置されている。どのような人物が選ばれているかは明らかでないが、おそらく前者は編集に詳しい、また後者は寄付額の大きい理事が、それぞれ兼務しているものと思われる。

次に、これら役員の構成については、【表2】【表3】【表4】【表5】の通りである。まず1981年の改組（第2届）当時、役員には26名が就任している。これを職業別で分類すると、公務員が27%を占め、つぎに教育関係（12%）、工商業関係者（11%）、警察関係（11%）と続いている。工商業者のなかには、前出の楊義富のように、もと軍人であった者が相当数含まれている。このことから、大陸から移住した四川人は、その多くが政府・

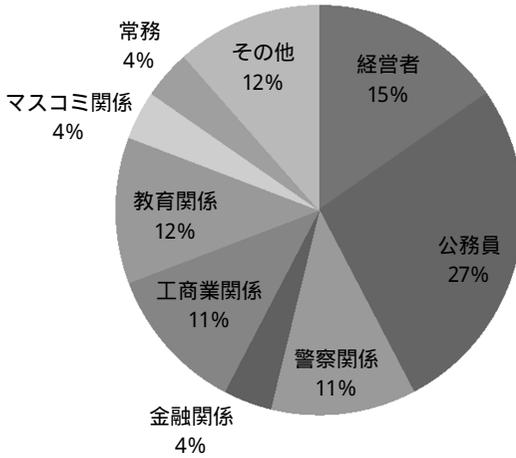
【図1】高雄四川同郷会組織概略図



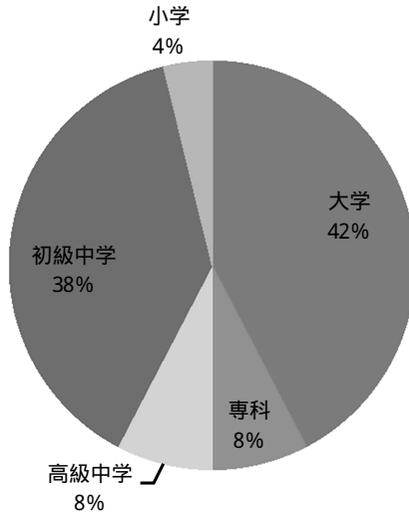
出所：「高雄四川同郷会章程（草案）」をもとに筆者作成。

26) 「高雄四川同郷会会館設置説明」『高雄四川同郷会（1981年）』6頁。

【図2】 理事・監事の構成（第2届，職業別）



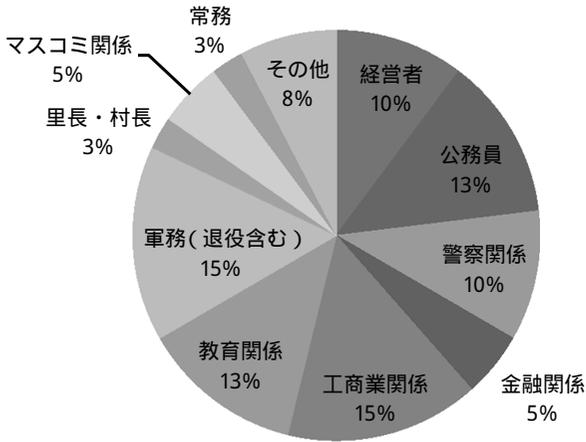
【図3】 理事・監事の構成（第2届，学歴別）



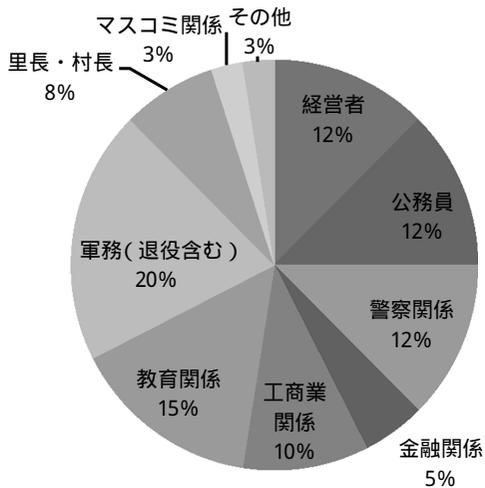
軍隊関係者であったことが裏付けられるであろう。さらに学歴で分類すると、大学卒と初級中学（日本の中学校に相当する）卒がもっとも多く、両方で全体の8割を占めている。概して公務員や教員に比較的高学歴の者が多

## 大戦後台湾における同郷会組織の形成

【図4】 理事・監事の構成（第3届）



【図5】 理事・監事の構成（第4届）



く、警察・軍務関係者や、工商業関係者には、比較的学歴の低い者が多い傾向がみられる。

1985年改組（第3届）の際には、39名の役員が就任している。当時の

『年刊』に記載された名簿には学歴の欄がないため、ここでは職業別の分類のみが可能である。これによれば、工商業関係および軍務がそれぞれ15%と最も多く、続いて公務員および教育関係（13%）、警察関係（10%）、工商業関係（15%）、経営者（10%）の順となっている。依然として公務員もしくはこれに準ずる職業に従事する者が多いが、公務員の比率が減少しているのは、理事の多くが退職年齢を迎えていたことが影響していると考えられる。

1987年改組（第4届）でも同様の傾向がみられるが、里長・村長など、地方自治体の公選議員が理事及び監事に加えられているのが特筆される。詳細は不明であるが、同郷会の支持を基礎にした政治活動の存在が示唆される。

同郷会の理事・監事にどのような人物が就くかということは、同郷会の社会的信用ともかかわる大きな問題である。戦前の重慶では、金融業者や商人がこうした役割を担うことが多くみられた<sup>27)</sup>。一方、台湾で形成された同郷会では、まず公務員や軍人など、政権との関わりが強いということ、つまり政権との距離が、「信用」を勝ち取るうえでの重要な要素であった。これに、時代の移り変わりとともに、事業に成功した工商業者が、財力という「信用」を加えていったと言えるであろう。

以上、高雄四川同郷会の組織について、そのあらましを検討した。つづいて次章では、同郷会の具体的な活動の実際について、考察していくこととしたい。

## 高雄四川同郷会の活動

### （1）文化事業 アイデンティティ形成機関としての同郷会

同郷会が力を入れている活動の一つが、各種の文化事業である。これに

---

27) 前掲林幸司『近代中国と銀行の誕生 金融恐慌・日中戦争・そして社会主義へ』。

は、各種慰安旅行や、観劇、記念日の宴会など、様々な催しなどが含まれる。中でも注目されるのが、機関誌『高雄四川同郷会年刊』を通して開催される、同郷会全体でのキャンペーン活動ともいべきものである。例えば、1982年、日本の歴史教科書における日中戦争に関する記述が問題となった際には、日本政府に対する抗議行動を大々的に展開している<sup>28)</sup>。台湾における四川人の多くが、抗日戦争を起点としてキャリアを形成していることから、アイデンティティを「抗日」に置くことが、求心力を高める上で非常に重要なものであった<sup>29)</sup>。

また『年刊』では、定期的に読書感想文コンクールのような催しがおこなわれている。例えば、1984年には、「世界反共闘士索忍尼辛<sup>30)</sup>『自由中国へ』を読む」と題するコンクールが開かれ、多くの会員が文章をよせている<sup>31)</sup>。ここからは、「共産中国」に対抗する防壁としての台湾、またここに居住する台湾人としての立場が、明確に主張されている。

このように、文化事業の中からは、大陸を起点とする立場と、台湾を起点とする立場が入り交じった、独自の「立ち位置」のようなものが見て取れる。これらの活動からは、高雄四川同郷会の文化活動が、外省人としての四川同郷意識を高めるというだけでなく、台湾人としてのアイデンティティをも形成しなければならないという、複雑な事情を併せ持ったものであることを、垣間見ることができるであろう。

---

28) 「抗議日本改侵華史実 致送日本政府抗議書」『高雄四川同郷会年刊 72』(1983年2月26日)22~26頁。

29) 「四川省がなければ、中華民国の誕生はない。四川の『重慶精神』がなければ、中日抗戦八年の最終的勝利はない」という言い回しが、それを強く物語っている。「高雄四川青年聯誼活動」『高雄四川同郷会年刊 73』(1984年2月5日)54頁。

30) ノーベル文学賞(1970年)やテンプルトン賞(1983年)を受賞したロシアの作家、アレクサンドル・ソルジェニーツィン( )のことを指していると思われる。当時彼は国外追放処分を受け、アメリカで亡命生活を送っていた。

31) 「自由之声的迴響」『高雄四川同郷会年刊 73』(1984年2月5日)36~53頁。

（2）相互扶助機関としての同郷会

同郷団体においてももっとも重要な機能の一つが、相互扶助の実施である。高雄四川同郷会がおこなう相互扶助は、【表6】にまとめた通りである。

項目は、緊急救済、傷病慰問、弔慰、結婚や祝い、春節（旧暦正月）慰問、独居老人への扶養、法律医療相談、就職斡旋、など

【表6】高雄四川同郷会による相互扶助の内容一覧

項目	対象	状況	扶助の基準
緊急救済	本会会員	重大な事故に遭い救助が必要な場合。	実際の状況に従って、1000円以内で適宜援助する。
	四川籍同郷	旅行中に旅費が不足したり、緊急事故が発生した場合	食事一回、列車切符1枚を、状況にしたがって200円以内で援助する。（半年に一度を上限とする）
傷病慰問	本会会員	傷病による入院	慰問品か代金500円を贈る
弔慰	本会会員	傷病により死去	挽幛*一幅と香典500円を贈り、適当な人員を派遣して葬儀に参列する
	会員の配偶者及び直系	傷病により死去	挽幛一幅と香典1000円を贈り、適当な人員を派遣して葬儀に参列する
	親密な四川籍同郷および本会会員	傷病により死去し、本会による代理が必要なもの	遺書に基づいて人を派遣し対応する
結婚や祝い	本会会員	会員で古稀以上のもの、会員本人及びその子女による結婚・新居落成・創業など	500円前後の記念品を贈る
春節慰問	本会会員	年老いて一人暮らしであるか、病気が癒えない場合	慰問品か代金1000円を贈る
	四川籍同郷	傷病により入院	300円以内で慰問品か代金を贈る
	身寄りのない老人や孤児	最も救済が必要な家や孤児院を選んで慰問する	その際の経費状況にしたがって慰問を行う
独居老人への扶養	本会会員	65歳以上の独居老人が病の癒えないもの	本会が市社会局と交渉して施設に入居させ扶養する
法律医療相談	本会会員及びその家族	法律や医療問題について相談が必要なもの	本会法律顧問や特約医師を介して回答する
就職斡旋	本会会員及びその家族	会員及びその家族で本会の仲介による就職斡旋を望むもの	本会が紹介する

出所：「高雄四川同郷会会員互助服務実施辦法簡要表（中華民國七十一年十一月廿日修訂）」『高雄四川同郷会年刊 72』82頁

\* 死者を弔うために贈る絹布の意。

多岐にわたっている。これらの相互扶助は、会員間の助け合いを主体としていることは言うまでもないが、 のように同郷会と直接関わりのない四川出身の人々に対する一時的救済（食事の提供や汽車賃の援助など）にも対応しているところが、大きな特徴である。 の春節慰問や、 の独居老人扶養、 の法律医療相談については、高齢化問題が深刻化しつつある同郷会の状況をあらわすとともに、社会的公益団体としての同郷会の性格が強くあらわれている。また、 の就職斡旋については、主として若い世代に対する対応と見ることができる。会員にこうした即物的便宜を図ることは、入会に際しての重要なインセンティブとなるだろう。

これらの事業は、伝統的な同郷団体の相互扶助形式を踏襲するものであるといえる。これと同時に、高雄四川同郷会は、会員および会員の家族にたいする奨学金の支給をおこなっている。奨学金の支給は、同郷会組織に設けられた「奨学金・助学金評核委員会」がこれを取り仕切っている。奨学金の原資は、理事をはじめとする会員の寄付によるものである<sup>32)</sup>。この奨学金事業には、大きく分けて二つのものが含まれている。

まず、高級中学（日本の高等学校に相当）や、高等実業学校学生への奨学金である。ただし、これらの奨学金は、学生の多くが実家から通っており負担が少ないこと、軍人・教員・公務員に教育補助費が与えられていること、公立と私立でレベルが異なり公平を期するのが難しいこと、多くの子供がすでに高校や実業学校へ進むようになったこと、台北や他県・市の同郷会に類似の奨学金が設けられていないことなどの理由から、1984年の段階で廃止された<sup>33)</sup>。

これ以降、奨学金事業は、大学生以上を対象としたものになっていく。とくに注目されるのは、「四川人留学基金」の設置である<sup>34)</sup>。これは、四

32) 「高雄四川同郷会会員子女奨学金実施辦法」『高雄四川同郷会年刊 74』(1985年2月20日)73頁。

33) 「取消高中高職及專科學校奨学金原因説明如下」『高雄四川同郷会年刊 74』(1985年2月20日)73頁。

川同郷会が20万米ドルをシティバンク高雄市支店に預託し、留学のための基金にしようとするものである。申請者の条件として、四川籍の学生であること、大学学部卒業程度の学歴を有すること、理工科専攻であること、大学および大学院の平均成績が80点以上（日本で言うところの「A」或は「優」に相当する）であること、TOEFLの成績が基準に達していること、留学期間が終了した後四川に〔台湾に〕帰ること、欧米および日本への私費留学に限ること、などが挙げられている。奨学金については、基金の運用を基礎として、毎年5,000米ドルを提供し<sup>35)</sup>、学位の取得後二年以内に、一括もしくは分割で返還することとされた。

こうした活動は、同郷団体のなかに、いわゆる「学田」のような共有財産を形成するという発想に基づくものであると言える。「学田」とは、祖先を同じくする父系家族集団であるところの宗族が、子弟を勉強させるための財産を供出し、これを「族産」としたことに由来する。財産の均分制が徹底している中国社会において、こうした族産の存在は、宗族全体の勢力を維持するために欠かせないものであった。同郷会になぜ寄付が行われるのかという問題に関しては、このような「族産」としての側面にも留意していく必要があるだろう。同郷会に実利的な機能を求める会員のありかたが如実に見える事例として、興味深い。

### (3) 「落葉帰根」から商業の窓口へ 大陸との接点としての同郷会

1980年代以降、中国大陸と台湾の交流が限定的に解禁されて以降、それまで分断状態にあった台湾から大陸への里帰り「返郷探親」が、一大ブームとなっていた。こうした流れをうけて、高雄四川同郷会では、「返郷

34) 「高雄四川同郷会附設四川人留学基金申請辦法」『高雄四川同郷会年刊79』（1990年9月7日）、4頁。

35) ただし、「申請者はパスポートと留学ビザ取得後、香港の『陳太太（陳奥さん）』のところへ行って5,000ドルを借りるように」との規定がなされている。奨学金の支給方法については、当時の国際状況などから、もう少し複雑な事情があったものと考えられる。

## 大戦後台湾における同郷会組織の形成

探親」ツアーの企画と開催が、重要な行事として行われていく。

ツアーは、同郷会と関係が深いと思われる「高雄旅行社」や、同郷会理事との関係が深いと見られる「中旅旅行社」の主催で企画される場合が多いようである。例えば、1990年のツアーでは、以下のような日程が組まれている<sup>36)</sup>。

### (往路)

第一日：高雄 香港

第二日：香港 重慶(成都)。香港から直接現地へ飛び、解散する。

### (復路)

第一日：成都飯店か重慶賓館に集合

第二日：重慶もしくは成都 香港

第三日：香港 高雄

### (費用)

重慶・成都ともに25,000台湾元

費用には食事・宿泊・観光・交通の費用を含む。

また他の年度では、重慶・成都を起点とする帰郷と、西安・北京・南京・蘇州・上海・杭州・桂林・広州などの名所旧跡を回る観光コースがセットになっているツアーも催されている<sup>37)</sup>。

長い間故郷と隔絶した生活を送ってきた台湾の四川人にとって、故郷へ帰り「掃墓(墓参り)」を行うことは、長年の悲願であった<sup>38)</sup>。一方で、大

36) 「999Tours 四川同郷返郷探親行程表」『高雄四川同郷会年刊79』(1990年9月7日)裏表紙広告。

37) 「999Tours 四川同郷会返郷探親観光行程表」『高雄四川同郷会年刊78』(1989年9月7日)裏表紙広告。

38) 筆者の王一心氏への聞き取り(2008年9月)。また中には、大陸の文化大革命のなかで両親をなくしていた人もいた。こうした人々にとって、里帰りは特殊な意義を有していたといえる。鄧維仁「探親報導」『高雄四川同郷会年

陸への里帰りツアーを催行する旅行社の中には、費用を高く設定したり余裕のない行程を取ったりするものもあったという<sup>39)</sup>。国際状況が定まらない状況の中で、大陸への旅行は不確定な状況も多くあった。それゆえ、同郷会による信用を加えていくことが、四川籍の会員に強く望まれていたことが、こうした行事から見て取れるであろう。

また、台湾から大陸へだけでなく、大陸から台湾への訪問に対する援助も行われている。例えば、同郷会会員の一人が1988年に死去した際、台湾に銀行預金などの遺産が残されていたが、これを相続する子がいなかった。同居人から、大陸に残してきた息子にこれを継承させたいとの申し出を受けた同郷会は、大陸から息子を呼び寄せて葬儀を営んだだけでなく、立法委員（日本の国会議員に相当）や退役軍人組織などと交渉し、大陸人による台湾の遺産相続を承諾させたという<sup>40)</sup>。大陸と台湾の関係がまだまだ正常化されていない状態のなかで、このような問題を解決することは、大変な困難を伴ったであろう。「明日は我が身」と感じる会員達にとって、同郷会のこうした行動が求心力を高める要因になったことは想像に難くない。

他方、近年の高雄市四川同郷会の活動として最も重視されているのは、中国大陸において中華人民共和国政府が開催する様々な事業に、華僑・台胞代表の一員として出席することであるという。たとえば、2008年9月、高雄市四川同郷会は、「経貿訪問団」を結成して、四川省成都市で開催された「第四届中国西部海峡兩岸經濟科博会」に出席し、当地の政治家や経済界関係者との関係構築をおこなっている<sup>41)</sup>。こうした活動は、台湾の商

---

刊78』（1989年9月7日）79頁。

39) 藍成龍「旅行社的選択」『高雄四川同郷会年刊79』（1990年9月7日）64頁。

40) 資料室「本会協助故潘建勳之子潘瑞福來台奔喪及繼承遺產之處理經過情形」『高雄四川同郷会年刊78』（1989年9月7日）82～83頁。

41) 筆者の王芝剛理事長に対する聞き取り（2010年3月10日）、「参加海峡兩岸經濟科博会」『高雄川渝同郷会2009年刊』5頁。なお、同様の活動は、台北の四川同郷会もおこなっている（筆者の劉瑞品理事長に対する聞き取り、2010年3月15日）。

工業者「台商」による対大陸投資の接点としての役割の一端を、同郷会が担いつつあるということであり、大陸への寄付や里帰りなど「落葉帰根」的機能とは、性格を異にするものであると言えよう。また、新たなこうした流れの中で、高雄市四川同郷会では1990年代後半より、大陸との連絡や国際的コーディネートをおこなうための職員が招聘されている。そのうちの一人は、大陸出身で台湾に嫁いできた女性である<sup>42)</sup>。こうした機能は、今後さらに重要になってくるであろう。

### おわりに

以上、本稿では、台湾高雄市四川同郷会に焦点をあてて、台湾における外省人同郷団体の設立過程についての初歩的な分析をおこなってきた。これらについては、以下のような特質が指摘できるであろう。

まず、同郷会の組織分析からは、同郷会に求められる社会的信用の形態がうかがえる。民国期の四川で形成された同郷団体は、金融業者や商人などの経済人脈と一体となった組織であった。一方、1950年代以降の台湾で形成された同郷団体では、公務員や軍人など、政権との関わりの強さが、「信用」を勝ち取るうえでの重要な要素であった。このような中において、工商業者は財力という「信用」を加えていく立場にあり、経済的側面はいわば従の存在であったと言えるであろう。ただし、こうした特徴は、政治状況の緩和と経済発展の進展とともに、やがて変化を遂げていくものと思われる。

つぎに、同郷会の活動においてもっとも重要な点は、会がその会員に実利的かつ即物的な便宜を提供するという点である。この点から見て、理事や監事らの存在は、こうした活動を保証する、家父長的保証人のようなものであると言えるだろう。そして、こうした信用の形態は、大陸を起点とする立場と、台湾を起点とする立場が入り交じった、四川籍台湾人特有

---

42) 筆者の尹濤氏に対する聞き取り(2008年9月)。

の「立ち位置」によって規定されていたのである。

世代交代とともに、こうした位置づけはさらに強まりつつあるようである。高雄四川同郷会を設立した大陸出身の世代は、多くが80代を迎えており、大陸との縁が薄い新世代へと代替わりが進もうとしている。その中で、同郷会に求められる「信用」の内容は、どのように変化して行くであろうか。また、大陸中国との関係性はどのように持たれていくのであろうか。これらの問題についての分析は、今後の課題としたい。

## 資 料

「高雄四川同郷会章程（草案，1981年）」【筆者訳】

### 第一章 総則

第 一 条 本会名は高雄四川省同郷会とする。

第 二 条 本会は同郷の誼を深め、団結を促進し、同郷の福利をはかり、国策を尊重し、建国復国の革命事業を加速させることを主旨とする。

第 三 条 本会は、高雄市大同二路二二六号に設置する。

### 第二章 会員と権利義務

第 四 条 およそ四川籍に属し、二〇歳以上で、本会の会章を遵守し、本会の義務を履行しようとするものは、みな本会の会員となることができる。

第 五 条 およそ本会に加入を希望する者は、入会登記表に記入し、身分証番号を証明し、本会理事会の認可を得なければならない。

第 六 条 およそ本会会員は、みな選挙・被選挙・罷免権を持ち、本会の一切の権利を享受することができる。

第 七 条 およそ本会会員は、本会の会章を遵守し、会費を納入し、本会の決議に従う義務をもつ。

第 八 条 本会会員のうち左記の状況にあるものは、監事会の検挙、理事会の通過、大会の追認を経て、その会員資格を喪失する。

（一）本会会章に違反し義務を履行しない者

（二）刑事処分を受けた者

（三）卑劣な行為により検挙され、会員大会で処分された者

### 第三章 組織と職権および会議

#### 甲、会員大会

第 九 条 会員大会は毎年一回開かれ、理事長が召集し、理事会が必要と認め

## 大戦後台湾における同郷会組織の形成

るさい、あるいは会員の十分の一以上が請求するさいに、臨時会員大会を開くことができる。

第一〇条 会員大会及び臨時会員大会が開かれる際には、開会の七日前に書面で通知するか、所在地の新聞に通知を載せなければならない。

第一一条 会員大会の開催には会員の半数以上の出席が必要で、表決方法は、出席会員の半数以上の同意によっておこなう。

第一二条 会員大会の主席は、理事長が担当し、理事長が不在の際には、常務理事のうち一名を互選してこれに代える。

第一三条 会員大会の職権は左記の通りである。

- (一) 会務方針の決定。
- (二) 本会会章の制定および修正。
- (三) 理事監事の選挙および罷免。

### 乙、理事会

第一四条 理事会は会員大会によって選挙された理事二五人により組織され、候補理事は七人で、任期は二年とし、再選された場合は再任できる。その職権は左記の通りである。

- (一) 大会決議の執行。
- (二) 会員大会の開催。
- (三) 各種の联谊会【親睦会、筆者注】の開催。
- (四) 経費予算決議の編成。
- (五) 経費収支項目の処理と公布。
- (六) 本会職員の雇用。
- (七) 本会活動方針の決定。
- (八) 同郷福利の実施。
- (九) 同郷公益事業の推進。

第一五条 理事会は五名を互選して常務理事とし、常務理事の内一名を選出して理事長とする。

第一六条 常務理事の職権は左記の通りである。

- (一) 理事会の決議の執行。
- (二) 理事会の開催。
- (三) 日常会務の処理。

第一七条 理事長は本会会務を総理し、対外的に本会を代表する。

第一八条 理事会は総幹事一名を設け、理事会および理事長の命を受け、会務処理を助ける。

第一九条 常務理事は毎月一回召集し、理事会は二ヶ月に一回召集し、理事長

が主席をつとめる。理事長が欠席した際には、理事長が委任した常務理事一名がこれを担当する。

第二〇条 理事会は理事の過半数の出席により開催することができる。その議決方式は、出席理事の過半数の同意によって行う。

第二一条 本会は名誉理事若干名を招聘することができる。理事会が決定する。

第二二条 本会は業務の必要によって、各種委員会を設置することができる。

#### 丙、監事会

第二三条 監事会は会員大会により選出された監事五名によって組織され、候補監事は二名で、任期は二年とし、再選された場合は再任することができる。その職権は左記の通りである。

- (一) 本会会務の進行の監視。
- (二) 規則に違反した職員および会員の検挙。
- (三) 本会経費収支帳簿の審査。

第二四条 監事会は監事の内1名を互選して常務監事とし、本会監査事務を司る。

第二五条 監事会は二ヶ月に一回会議を開催する。

第二六条 監事は理事およびその他職員と兼任することはできない。

#### 第四章 経費

第二七条 本会経費は左記各項によって充当する。

- (一) 入会費二百円。
- (二) 年会費一百円。
- (三) 特別援助および寄付。

#### 第五章 会員福利

第二八条 本会会員に左記の状況がある場合、本会は援助を行わなければならない。

- (一) 就業進学の指導および奨励。
- (二) 疾病傷病死亡した際の援助。
- (三) 学術研究と娯楽の企画。

#### 第六章 付則

第二九条 本会事務細則は別に定める。

第三〇条 本章程は会員大会を通過後、主管官庁の批准を申請する。修正の時も同様の手続きを行う。

出所：『高雄四川同郷会年刊（1981年）』7～8頁。